

[科目名] 美と価値				[単位数] 2単位		[科目区分] 教養科目(第1群)	
[担当者] 木村直弘 KIMURA Naohiro			[オフィス・アワー] 時間:授業終了後 場所:授業実施教室または担当教員へメール			[授業の方法] 講義	
[科目の概要] 「美と価値」という一種哲学的な命題ともとられかねない科目名ですが、本講義では、「美と価値」について考えるにあたって、より具体的なテーマである「美人論」を設定します。近年はハラスメント関係への配慮へもあって「美人は得だ」といった(価値判断的)表現は表だってされることはなくなりましたが、「美人」という表現は相変わらず世の中に氾濫しています。もちろん、「性格美人」といった言葉もあるように、「美人」の対象は容貌的なものに限りません。時代や地域によって「美人」の定義や基準が異なるのは言うまでもありませんが、この講義では、日本、東アジア、西欧それぞれにおける「美人」像の変遷の背景に光を当てることによって、ふだんわたしたちがきわめて主観的なものと捉えている「美しさ」という概念がいかにか制度的なものであるかについて、改めて考えてゆきます。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 「美」や「芸術」といった分野は、一般的に「好み」や「趣味」が大きく関わる分野であることは言うまでもありません。それゆえ、その「好み」や「趣味」は自分が主体的に選択していると思いがちですが、実はそうした趣味が無意識のうちに選択させられていることがほとんどです。つまり、自らの嗜好、自分の「趣味」というのは、最も critical thinking を働かせたり相対化したりしにくい分野なのですが、そうした思い込みをなくし他人の意見に流されないようにするためには、まさに critical thinking(メタ認知、鳥瞰的思考、複眼的思考)が不可欠です。まさにそうした発想を養うにあたって、最も critical thinking 的視点から遠いと考えられる「好み」「趣味」という分野はもっともふさわしいものです。そして、critical thinking ができるかどうかは、自らがいろいろなひきだし(視点)をもっているかどうかにかかっています。そこに、この講義がより多様な視点を学ぶことができる一般教養教育科目中に位置づけられている意味があると言えるでしょう。							
[科目の到達目標] 1. 日常的によく使われている「美」という概念について、自分の言葉で説明出来るようになる。 2. 各時代、各地域での「美人」像の変遷を知ることによって、メタ認知的視点を獲得する。 3. 最終的に、日常生活のあらゆる面でメタ認知的な発想ができるようになる。							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 毎回の講義中に課されるリアクションペーパーに要望等を記入してもらい、可能な限りそれを受講者と共有し、授業に反映する。							
[教科書] 使用しない							
[指定図書] 特になし							
[参考書] 特になし							

〔前提科目〕	
特になし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業回で課される小課題 60 点+学期末レポート課題 40 点=計 100 点の総合評価。</li> <li>・出席回数が 10 回に満たない者には単位を与えない。</li> <li>・平常点は毎回出される小課題によるが、正解のない課題であるため、回答への取り組み姿勢も含めて評価する(課題を提出してもその取り組み姿勢や内容が悪ければ 0 点の場合もある)。</li> <li>・A : 80 点以上、B : 80 点未満~70 点以上、C : 70 点未満~60 点以上、D : 60 点未満~50 点以上、F : 50 点未満</li> </ul>	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
基本的に「美」や「芸術」といった分野に「正解」はありません。よって、毎回リアクションペーパーで課される小課題も、何か「正解」的な回答をするという意識を棄て、自らの意見について、(読む人に伝わるように)メタ認知を働かせて自由に書くよう要望します。	
〔実務経歴〕	
なし (担当教員は、他の高等教育機関で美学芸術学関係の講義を長年行ってきています。)	
授業スケジュール	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス:「美」とはなにか</p> <p>内 容: そもそも「美」とはどういう概念なのかについて概説し、それを考える学問としての「美学」や「美人」論を紹介します。</p> <p>教科書・指定図書:なし。適宜資料を配付します。</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 快としての美と価値としての美</p> <p>内 容: 西洋的価値観としての「真・善・美」などを例に、「美的判断」について学びます。</p> <p>教科書・指定図書:なし。適宜資料を配付します。</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): ヌードは美しいか?</p> <p>内 容: なぜ(日本では)公共の場に裸体像が置かれているのかから説き起こし、裸体美がどのように価値づけられてきたのかについて学びます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本における「美人」観の変遷</p> <p>内 容: 西洋同様、日本にも古くから「美人」という考え方がありました。日本古代から近代までの「美人」観の変遷を具体的な作品を紹介しつつ辿り、それが現代におけるわたしたちの「美人」観にどの程度影響を与えているのかについて学びます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本における「美男」観の変遷</p> <p>内 容: 「美人」はたいてい女性に対して使われるイメージですが、「美男」という言葉もあるように、男性も美的価値づけの対象になってきました。この回では、日本における「美男」観の変遷を辿ることによって、現代における西洋文化の影響の大きさについて改めて学びます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中国における「美人」「美男」観の変遷</p> <p>内 容: 日本人の「美人」についてのイメージは、当然のことながら中国文化からの影響を大きく受けています。日本文化のルーツの一つである中国における「美人」観の歴史的変遷について学びます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): なぜ「整形」するのか～韓国を例に～</p> <p>内 容: 日本と同様韓国も中国文化から大きな影響を受けていますが、特に現代でも儒教文化と戦争の影響は色濃く残っています。そうした影響と韓国で盛んとなった「整形」文化との関係について学びます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 西洋における美の価値づけと「美人」観(古代ギリシャ・ローマ)</p> <p>内 容: 裸体美の回で紹介した「プロポーション」ほか、古代ギリシャは現代まで西洋文化の源の一つとなっています。なぜ古代ギリシャが西洋文化のルーツなのか、それに「美」がどのように価値づけられていたのかについて学びます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 西洋における美の価値づけと「美人」観(中世・ルネサンス期)</p> <p>内 容: 「キリスト教の時代」とも言える西洋中世と、その反動としての「人文主義の時代」である西洋ルネサンスの時代における「美人」像の変化をふまえ、それぞれの時代の「美」の価値づけについて具体的な芸術作品を例に学びます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 西洋における 美の価値づけと「美人」観(17～18世紀)</p> <p>内 容: 前回に続き、西洋 17 世紀のバロック時代と「理性の世紀」と言われた 18 世紀における「美」の価値づけの変化と、その変化の背景について、具体的な芸術作品を例に学びます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 西洋における美の価値づけと「美人」観(19世紀)</p> <p>内 容: 西洋 19 世紀は「ロマン主義」の時代と言われます。古典的なものが優勢だった 18 世紀の反動としてのロマン主義は、現代における芸術観に直接影響を与えています。市民階級が力を持ち始めたこの時代の美人像がどのように表現されたかを通じて、この時代における美の価値づけについて学びます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): ファッションの変革と「美人」観の変遷～20世紀における身体のパリティクス</p> <p>内 容: 20世紀は一言で言えば多様性の時代であり、「美」のあり方も多様になります。ここでは19世紀からの「ファッション」の世界での変化を当時の身体観の変化と重ね映し考察することで、美を価値づけることの多様性を学びます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「かわいい」は「美しい」と「グロテスク」の狭間?</p> <p>内 容: 現代では、もはや「美しい」という形容詞は流行らず、より包括的な概念としての「かわいい」に取って代わられているように見えます。この回では、「美しい」と似たカテゴリーに入る形容の仕方を比較検討することによって、「美」を価値づけるということはどういうことかについて間接的な視角から考えます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「ミロのヴィーナス」や「モナ・リザ」は美しいか?</p> <p>内 容: これまでの授業内容をふまえ、「ミロのヴィーナス」や「モナ・リザ」といった有名な芸術作品は本当に「美しい」のか、必ずしも美しくないのであれば、それらはなぜ価値ある美術品とされているのか、その理由を改めて考えます。</p> <p>教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。</p>

第 15 回	テーマ(何を学ぶか): まとめと確認 内 容: 各回で学んだことを改めて振り返り、全体での学びを確認します。最終回なので、アンケートも行います。 教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。
試 験	筆記試験は行わず、学期末レポートを課します。